

第55回日本実験動物技術者協会総会参加報告

医学系部門生命科学実験班 畠山 照彦

1. はじめに（目的等）

実験動物技術に関する最新の情報を収集し、他機関の技術者と交流をして情報交換することで、今後の業務への知識と技術の向上に生かしたいと考え、本総会に参加した。

2. 期間・場所

期間：令和元年10月14日（木）～10月16日（土）

場所：Web開催（ライブ配信＋オンデマンド配信）

3. 参加者等

日本実験動物学技術者協会会員、非会員及び学生等

4. 研修内容

※別紙：日程表参照

5. まとめと感想

今回、本総会は新型コロナウイルスの収束の見込みがないため、初めてのWeb開催となった。Zoomを使用した大規模な学会参加自体、私自身も初めての経験であり、どのようなものになるのか全く想像つかなかった。しかし、参加してみると思った以上に参加しているという実感があり、終わってみると大変有意義なものとなったのは正直意外であった。運営する側は、初めての試みということもあり、さぞ準備が大変だったであろうと感じた。

特別公演やセミナー、シンポジウムでは、リアルタイムで演者がスライド等を使用して直接喋るライブ配信形式であったが、一般演題の口頭発表では、座長の進行のもとあらかじめ録画した動画ファイルを流し、最後の質疑応答で演者が回答するという形式であった。なお、聴講者からの質問は、全てチャットで送られたものに対して答えられていた。私自身のパソコン（Mac）のバグにより、発表途中の表示がおかしくなる不具合が発生したが、チャットで運営の方に助言をいただき、回避することができた。それ以外では、特に大きな問題もなく、会が進められた。

本総会を通して私が一番面白かったのが、ポスター発表である。ポスターの画像データは、総会が始まる前に既に公開されており、いつでも閲覧が可能であった。コアタイム（30分間）になると、各ポスターの演者が待機したリンクが設けられ、そこに飛んでいくことで直接話を聞くことができた。この形式により、顔を見ながら聞きたいことが聞けるため、Web会議のような状態でのやりとりをすることができた。以前から交流のある外部機関の方とも、久々に話をするのができ、発表内容の情報交換はもちろんのこと、コロナ禍での苦労話や近況報告など、本当の学会会場にいるような気持ちになれた。もっといろいろな方の話が聞きたかったが、コアタイムの時間が思った以上に短かったため、非常に残念である。

今回、特にポスター発表で色々と生の話を聞くことができたおかげもあり、ただただ Web での学会を眺めて終わるようなものではなく、実際に自分が参加したという実感があるものとなった。今年度より、霞動物実験施設の増築棟の建設が予定されており、必要な機器の選定やプロット図の作成等を進めてきたが、完成後の施設での運用に使用できるような消毒薬等の情報を仕入れることができ、大変勉強になった。これら今回の総会で学んだことを活用し、今後の業務に生かしていきたいと考える。